

学生大使 実施報告書

氏名：三瓶 貴誉

学部・学科（コース）・学年：

地域教育文化学部 地域教育文化学科 文化創生コース

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2024年9月4日（水）～2024年9月18日（月）

1 日本語教室での活動内容

日本語教室は日向クラブという日本語学習のためのクラブが主催しているものである。集まる人は、ここに来る頻度が多い人や少ない人であったり、日本語のレベルも50音表の理解から始めている人から会話がそつなくこなせるレベルまであったりと、さまざまであった。私は初心者から上級者までさまざまなレベルに合わせた集団授業ができるように教材や話す内容を準備していた。しかし、いざ日本語教室を行うことになった際に、毎回、参加人数に対して日本人のメンバーが均等であったため、1対1、もしくは1対2（日本人 対 ベトナム人）の少人数体制で日本語教室を行った。私は主に会話をメインでしたいというベトナム人に教える機会が多かった。最初は準備していた授業体系と全く異なったため苦労したが、リラックスして何について話すかトピックを決めて話し合う中で日本について教えるとともに、ベトナムについて気になったことをたくさん投げかけることで力むことなく会話が弾んでいった。もちろん、会話ができるけどうまくわからない、伝わらない場合も多かった。その際にはジェスチャーを用いて、説明した。また、日本語を話す際には「はさみ」を意識した。ベトナムで実践したことでこの考えの有用性を実感した。「はさみ」とは、「はっきりと」、「最後まで」、「短く話す。」これら3つの頭文字をとって「はさみ」となる。普段日本人同士で日本語を話す際には、はっきり話さず。ぼそぼそとしゃべることが多いだろう。はっきり話さずとも伝わるからだ。しかし、意識せずにぼそぼそと話せば日本語学習者に伝えることは難しくなってしまう。それを意識するために「はっきり」話すことが必要である。そして、日本語は最後まで言葉を発しないことが多い。「～で困っているのですが…」という言葉は相手の言いたいことをくみ取る高度な技術が必要である。また、語尾をはっきりと話さないことも聞き取りにくい要因となる。そのため、「最後まで」話す必要があるのである。最後に文章の構造自体の話である。日本語学習者にかかわらず、最も伝わりやすい文章というのは単文である。「私には医者の弟がいます。」よりも「私には弟がいます。私の弟は医者をしています。」といった方が伝わりやすい。一つの文に一つの内容を入れる単文の話し方は伝わりやすいうえ、聞き取れなくても次の単文がわかれば類推しやすい。そのため、「短く話す。」必要があるのである。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外ではご飯や観光地に連れて行ってくれた。今回の学生大使は大型の台風の

【学生大使 実施報告書】

影響で日本語教室や英語教室が何度もキャンセルされ、ハロン湾や中部地方へ行くことも台風の影響によって難しくなってしまった。ベトナム側であらかじめ立てていた予定が大きく崩れた形となったであろう。そんな中でもベトナムの方々は柔軟に対応し、いろんな所へ連れて行ってくれた。いろんなところへ出かけながら、ベトナムの方々と話すことは大いに刺激的であった。特に、職業観について話し合ったことが印象的であった。日本語のスピーチコンテストで出るベトナムの学生にスピーチ内容を見せてもらったところ、その内容は周りの圧力と就職に関することであった。彼女は4年生であった。日本語の先生になりたいという夢と、現実的に就職の内定を決めてほしい親、周りが次々に就職を決めている、それらの圧力との葛藤であった。私と同じ悩みであることに衝撃を受けた。私もカウンセラーになりたいという夢と、カウンセラーではお金をあまり稼げない現実、親はお金を稼ぐ仕事、もしくは早く就職してほしいという圧力とに悩んでいた。日本人と同じような悩みを抱えているのだということに衝撃を受けるとともに、その中で語り合った内容によってこれからどうすればいいか改めて考えるきっかけとなった。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私の参加目標は遠慮せずに質問し、自分について話して、主張していくことである。私はコミュニケーションにコンプレックスを持っていた。何を話せばいいかわからない、質問が浮かんでも遠慮してしまって話せないといったコンプレックスである。この留学の中で、自分のコンプレックスを変えたいと考えていた。その参加目標はおおむね達成されたと感じる。自分の中でここは主張していいのだ、遠慮する必要はないのだと感じた。今まで遠慮する必要があるのにもかかわらず、過剰に遠慮していることに気づけた。そして、人と関わることは楽しいと実感できたことが大きな収穫であった。

4 プログラムに参加した感想

今回のプログラムに参加して、人の温かさにとくさん触れ、人に対する信頼を取り戻せたように思えた。今までは自分が勝手に壁を作って距離をとっていただけなのだと気づいた。自分から関わっていこうと懷に飛び込めば、そこには暖かな人のやさしさがあり、刺激的な気づきがあった。このプログラムに参加してよかった、挑戦して人にかかわってよかったと感じた。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

これからは認知行動療法を学ぶこと、本をたくさん読むこと、就職か院に進むかを考えてく、もっとたくさんの人に出会おうと決めた。海外に行くことで自身の考えや行動が変わったことが興味深く、認知行動に関して勉強しようと考えた。そして、本の知識や考えたことが議論の場や話し合い、普段の行動の在り方に出ていることに今回気づきもっと洗練させていきたいと感じた。大学院に進みたいという気持ちを達成するために現実的にも考え、どう達成するか決めなければその気持ちがかたうことはないのだとベトナムの人と話して感じた。また、自分はたくさんの面白い人

【学生大使 実施報告書】

に会いたいという気持ちが人一倍強く、人に対する興味が強いことに気づいた。この気持ちを軸に行動していこうと考えた。



英語クラス



あやとり

【学生大使 実施報告書】



一番おいしかった食事 牛肉の炒め物



夜市場